



第1章

はじめに

税関発足 150 周年にあたって



税関は、明治5年11月28日（1872年）に全国の開港地に置かれた「運上所」が、その呼称を改めて正式に発足してから、令和4（2022）年に150周年を迎えました。

明治の初頭は、欧米諸国が海外に進出する中、日本も近代国家に向けて歩み出した変革の時期にありました。税関が発足した明治5（1872）年には、学制の公布、日本で最初の鉄道の開通、太陽暦であるグレゴリオ暦の導入発表など、近代化を象徴する様々な出来事がありました。それから150年を過ぎた今も税関は、これらの諸制度やインフラ同様、日本の経済・社会にとって必要不可欠な存在となっています。

開国当時、箱館（現在の函館）・横浜・長崎の3港で行われていた貿易は、日本の産業発展に伴い、拡大していきました。今では、日本全国で119の港と32の空港が、外国との貿易のために開かれております。今日までの長い年月の中で、貿易は国民生活を豊かにし、日本の経済は大きく発展してきました。

貿易が拡大し、国際物流が高度化・多様化する中、税関は、水際取締りを通じて国民生活の安全・安心の実現を図るとともに、関税や消費税等の適正かつ公平な徴収、税関手続の迅速化等による貿易の円滑化などに取り組み、健全な貿易の発展に貢献してまいりました。

発足から150周年という大きな節目を迎え、今後とも、これまで先人たちが築いてきた良き伝統を守りつつ、社会情勢や環境の変化を的確に捉え、業務の更なる高度化・効率化を図ることにより、税関が50年後、100年後も国民の皆様のご期待に応えられるよう、努めてまいります。

令和5年4月

財 務 大 臣

鈴木 俊一



公益財団法人 日本関税協会
会長

小林 健

税関発足 150 周年おめでとうございます。

税関は、明治 5（1872）年にその前身である運上所から名称を「税関」と改めて以来、日本の健全な発展と安全・安心な社会の実現に大きな役割を担ってきました。その間、日本経済の高度成長、グローバル化の進展など税関を取り巻く環境は急激に変化しましたが、情勢変化に的確に対応して、夫々の時代の中で使命を果たしてきました。今日では「安全・安心な社会の実現」、「適正かつ公平な関税等の徴収」、及び「貿易の円滑化」の 3 つの使命に加え、開発途上国税関の改革・近代化にも積極的に貢献し、世界最先端の税関を目指していることは大変心強く感じています。

令和 2（2020）年に「スマート税関構想 2020」を取りまとめ、昨年には「スマート税関の実現に向けたアクションプラン 2022」を公表し、今後も国民の安全と安心を守り続けながら、豊かな未来の実現に向けて大きな役割を果たされることを期待しています。

私ども日本関税協会は、昭和 24（1949）年 10 月に「財団法人」として設立以来、70 年以上にわたり税関と共に歩んで参りました。世界経済を取り巻く状況が急速に変化しつつある中で、当協会は今後とも税関と協力しながら貿易の円滑化に資する関税政策や税関行政に関する事業展開をして参る所存です。

終わりに、重ねて発足 150 周年の盛事を祝福申し上げますとともに、税関の益々のご発展とご多幸を祈念申し上げます。



一般社団法人 日本通関業連合会
会長

岡藤 正策

この度は税関発足 150 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

税関は明治 5（1872）年の発足以来、諸外国との最前線において関税等の徴収を通じて国家財政に貢献するとともに、輸出入手続を通して貿易秩序の維持、発展に努められてこられました。心から敬意を表したいと思います。

通関業のルーツは明治 34（1901）年に施行された「税関貨物取扱人法」ですが、当時豪州のカUSTOMS・エージェンツに範をとって規定されたことが記録されています。この時から通関業は税関のパートナーとして適正かつ迅速な通関手続の確保に努めてきたこととなります。これも偏に財務省関税局・税関のご理解とご協力によるものと、全国の通関業者を代表して感謝を申し上げる次第です。

去る令和 2（2020）年、関税局は「スマート税関構想 2020」を公表し、さらに令和 4（2022）年 11 月、「スマート税関の実現に向けたアクションプラン 2022」を発表しましたが、この中で 20 年後、30 年後においても更なる国民の期待に応えるため世界最先端の税関を目指すことを宣言されました。日本通関業連合会としても「世界最先端の税関」のパートナーとして世界に誇れる業界を目指したいと思っておりますので、今後ともご支援、ご指導をお願い申し上げますとともに、財務省関税局・税関の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社
代表取締役社長

平松 均

この度は、税関発足 150 周年おめでとうございます。この記念すべき時に、税関と強い繋がりのある輸出入・港湾関連情報処理センター（NACCS センター）の社長として関わる事ができたことを非常に光栄に感じています。

NACCS は、昭和 46（1971）年に当時の大蔵省関税局が航空貨物の通関業務の電算化について検討を開始したことに端を発し、現在では、船舶・航空機及び輸出入貨物に関する税関その他の関係行政機関に対する手続及び関連する民間業務をオンラインで処理するシステムとなりました。今では、税関における輸入手続の約 99% が NACCS によって処理されている、まさに税関と共にあるシステムです。

当社では、税関の使命の一つでもある貿易円滑化の実現のため、24 時間 365 日 NACCS の安定稼働に取り組んでおります。さらに、アジア地域における貿易円滑化を進める我が国政府の方針を踏まえ、NACCS 型貿易関連システムの導入支援に加え、最近では経済連携協定に基づく原産地証明書について、インドネシアなどと NACCS を通じた電子交換が可能となるよう開発を行っています。

今後も、最新技術の動向等を踏まえつつ、港湾・空港における利便性・信頼性・経済性の高い効率的な「総合物流情報プラットフォーム」の構築を目指し、引き続き税関との連携を密にしつつ、新たな時代を共に進んでまいりたいと考えております。



世界税関機構（World Customs Organization）
事務総局長

御厨 邦雄

日本税関発足 150 周年にあたり、心よりお祝いを申し上げます。

世界の税関は、国境における「税」と「関」という共通課題に対し、世界税関機構（WCO）を中心に一致団結して対応しています。WCO のビジョンである Borders divide, Customs connect（国境があっても繋がる税関）という言葉は「税関ファミリー」とも呼ばれる国際的な税関コミュニティを体現しています。その中で、日本税関は、国際標準設定や国際協力の分野で多大な貢献をしてきました。税関手続の電子化や通関時間の短縮での先進的な取組で、各国税関の尊敬を集めています。

日本税関職員はブリュッセルにある WCO 本部で議論をリードしたり、WCO による途上国支援に加わり、その国のビジネス環境の改善や日本を含む各国企業の進出にも貢献しています。更に、密輸取締りのための WCO を通じた各国との情報交換でも大きな成果を上げています。

昭和 39（1964）年に日本の WCO 加盟後、国際社会は大きく変化してきました。今後、税関を巡る環境は絶えず変化していくでしょう。グローバルな課題にはグローバルな対応が、変化には素早く、柔軟に対応することが必要です。歴史ある日本税関が、次世代の育成を通じ、税関ファミリーの中で強いリーダーシップを発揮することを期待しています。

150周年を記念して幅広い層に向けて様々な事業を展開しました。

小中学生に税関の仕事や貿易を知ってもらえるよう子供用制服を着用した職業体験や絵画コンクールを開催しました。



税金の計算業務を体験



「神戸から世界へ」
神戸市立塩屋中学校 3年
高尾 宗一郎
(兵庫県)



「世界の船」
西宮市立南甲子園小学校 5年
ないとう じゅな
内藤 樹那
(兵庫県)

小中学生絵画コンクール 財務大臣賞受賞作品

大学生に国際物流や世界経済と絡めて税関の役割について学んでもらえるようフォーラムを開催しました。



幅広く税関の歴史や業務を知ってもらえるよう職員のガイド付きで税関ゆかりの史跡を巡るツアーや、パネル展など様々なイベントを開催しました。



メディアや税関ホームページなどを通じて税関について広報活動を行いました。

著名人を広報大使に委嘱しメディアを通じてPRしました。



タレント・斉藤慎二さん、女優・高田夏帆さん



元プロ野球選手・岩瀬仁紀さん

税関と同じく150周年を迎えた企業とともに、各社の歴史と未来に向けた動画をJR東日本の電車内（一部路線）において放映しました。



ポスター、ロゴマーク

税関発足150周年特設サイト開設



150周年記念動画



水際で守る 日本の未来

メインカラーの青色は、空と海の物流、そして信頼をイメージしています。また、円を形作る3本の流れは、過去、現在、未来であり、時代を超えた社会の流れを表現しています。ロゴマークの中心には、身を守る盾を置き、国民の安全と安心を守る税関を象徴するとともに、3つの桜が税関の使命（安全・安心な社会の実現、適正・公平な関税等の徴収、貿易の円滑化）を示しています。また、税関のメッセージとして、キャッチコピー「水際で守る 日本の未来」を併記しています。

その他



特殊切手



お土産袋

プルーフ貨幣セット



税関発足 150周年 記念式典

令和4(2022)年11月28日、税関の発足から150周年を記念した式典を挙行了しました。

式典には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご臨席されました。また、現役税関職員や職員OBのほか、国会議員や在京大使、税関行政に関する団体の役員等、多くの各界関係者にご列席いただきました。

税関発足 150 周年記念式典の様相 (パレスホテル東京)



宣誓 税関職員代表



開式・閉式の辞 諏訪園健司 関税局長



秋篠宮皇嗣同妃両殿下 ご臨席



式辞 秋野公造 財務副大臣



来賓祝辞 麻生太郎 前財務大臣



来賓祝辞 御厨邦雄
世界税関機構 (WCO) 事務総局長



大型 X 線検査装置及び画像解析



商業貨物検査ご視察



入国者の手荷物検査ご視察



麻薬探知犬デモンストレーション

令和4(2022)年9月14日、秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、税関の現場をご視察されました。ご視察の先々で熱心にご質問をされるなど、税関の役割を知っていただく得難い機会となりました。

秋篠宮皇嗣同妃両殿下の税関ご視察



秋篠宮 皇嗣殿下 おことば

本日、「税関発足 150 周年記念式典」が開催され、この場にお集まりの皆様、また、画面を通して、全国 9 つの税関で職務に精励されている皆様とともにお祝いできますことを誠に嬉しく思います。

日本の税関の歴史を振り返りますと、1858 年に欧米 5 ヶ国との修好通商条約が締結され、その翌年に箱館と横浜、そして長崎の港に運上所が置かれたことに始まります。そして 150 年前の本日、全国に設けられていた運上소가、現在の税関へとその名称が統一されるに至りました。

この時以来、我が国は、諸外国との貿易を通じて産業を盛んにし、国民生活を豊かにするなど、目覚ましい発展を遂げてきました。この間、税関は、関税等の適正な徴収や密輸の厳格な取締り、貿易の円滑化を推進し、人々が安全で安心して暮らせる社会の実現と、貿易を通じた経済発展に大きく貢献してきました。

私は過日、そのような税関の現場を見学する機会を得ました。その際、日々世界中から届く膨大な数の郵便物や船舶によってコンテナで運ばれてくる貨物、そして外国から入国する旅客の手荷物に不正な薬物や知的財産を侵害するようなものが隠されていないかを検査していることなどについて説明を受けました。そして、職員一人一人が真剣に検査をする様子を間近に見、高度な専門知識と経験を活かし、懸命に仕事に励んでおられる姿が強く印象に残りました。皆様が日々士気高く職務を遂行されることによって、人々の安寧な暮らしが築かれていることを再認識した 1 日であり、そのたゆみない努力に深く敬意を表します。

島国である日本において、水際を守る税関の役割は重要であり続けます。その役割を果たすため、税関は、150 年の長きにわたって、社会や経済の変化に的確に対応してきました。これからも、その歴史の上に立ち、新たな取り組みも進めながら、社会的使命を果たしていかれることを期待しております。

おわりに、税関が発足してから 150 年を迎える年にあたり、職員の皆様が、今後とも職務に精励され、国民からの信頼や国内外の期待に引き続き応えていかれることを祈念し、本式典に寄せる言葉といたします。